

1. 教育目標

☆神様に感謝できる子
 ☆最後まで頑張る元気な子
 ☆人を思いやることのできる子

2. 目標達成のため本年度の重点

- ・「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉が素直に言えるように導き、みんな仲良く園生活を送る。
- ・子どもの主体性を大切に、心の器を広げる教育

3. 評価項目

評価項目	結果	内容
保育の計画性	4.0	★保育計画の中に子どもたちの発想を盛り込み、日々柔軟性のある保育に心がけてきた。
保育の方法と展開	4.0	★計画通り活動を進めるのではなく、子どもたちの考えも交えながら、子どもと保育士がともに作り上げていく保育を大切に、計画の調整をし取り組んだ。
保育教諭としての資質向上 能力・良識・義務	4.1	★園児一人一人の発達段階を踏まえ、柔軟性を持って子どもたちと向き合えるよう、日常の保育での疑問点を報告・連絡・相談の形で共有してきた。 ★カトリック幼稚園に勤務している自覚を持ち、子どもたちが仲良く遊べるように努めてきた。
保護者への対応	3.9	★“クラスだより”として1週間ごとに毎日の活動の様子を保護者に手紙で知らせている。 ★緊急連絡時、園から一斉メールで内容を伝えている。 ★年数回、保育参観を行い、普段の保育活動の様子を見ていただいている。 ★希望者による個人面談を行っている。 ★ホームページのおたより欄に行事などの掲載。

地域・関係機関との連携	4.0	★未就園児幼児教室の実施 ★9月のミニバザーで近隣の高校生の吹奏楽部が来園し、子ども向けの演奏会を開いてくださった。 ★高齢者施設の方々が来園し、園児と関わって遊び、楽しい時間を過ごした。 ★年数回“J T S 読み聞かせクラブ”主催の「読み聞かせ会」を開催し、いろいろな国の方々と交流ができた。外国の方の日本語と母国語の読み聞かせはさることながら、世界の子どもたちの遊びを経験することができ、毎回大喜びの園児たちだった。
研修・研究	3.9	★オンライン研修を含め、保育の質を高めるため、必要とされる分野の研修や自分の受けた研修に積極的に参加していた。
安全管理	3.9	★地震・火災・その他の防災計画に基づく訓練を行い、その結果を職員間で共有し、次の訓練に活かしている。 ★ヒヤリハットが未然に防ぐ手立てはなかったのか検証し合い、再び同じことが起きないように配慮に努めた。 ★年6回、函館市交通課の指導員が来園し、交通安全指導を行っている。 ★大切な園児の命を守るため、大きなケガや感染症の大流行がないように環境構成に努めている。

4. 2024 年度の総評

結果	内容
4.0	★保育士がそれぞれ取り組むべき課題について自己点検を行い、今後の保育につなげていこうとする姿が見られた。 ★保育の中で子どもたちの声に耳を傾けながら多様な体験をすることで、一人一人のいろいろな面をより深く見ることができた。 ★保育士のアイデアで環境づくりをしていくことが大切だと感じた。

5. 来年度課題

★保育士一人一人が引き続き、積極的に研修を受け、日々の保育の向上につなげたい。 ★園児と信頼関係をより深めるため、環境構成を工夫し、園児主体の楽しい園づくりに心がけたい。

2024年度 学校評価

認定こども園カトリック湯の川幼稚園

1. 教育目標

- ◎かんしゃする子
○ かんがえる子 ○ じょうぶな子 ○ やさしい子

2. 目標達成のため本年度の重点

- 子ども達一人ひとりの主体性を育む保育と教育

3. 評価項目（5段階評価）

評価項目	結果	内 容
保育の計画性	3	本園の教育（保育）過程に基づき実践し、評価と反省を繰り返しながら、子どもの実態や関心意欲、思いや願いに寄り添う活動になるよう保育計画を見直していった。
保育の方法と展開	4	日常の保育・教育の中で子どもの主体性に重点を置き、共感的・受容的に子ども達の声を聞き、子ども達の考えを大切にしながら活動を進めることができた。
保育教諭としての資質向上能力・良識・義務	4	担任全員が、園内での公開保育を行い、事後には全体でその保育について協議した。若い先生にとっては、ベテランの保育・教育の技術を学ぶにはよい機会となった。また、幼稚園としてのスタンダードを確立する機会にもなった。
保護者への対応	3	信頼関係を築けるよう親身な対応を心がけた。日常の子どもの様子については毎月のお便りやブログ等で知らせいるが、「もっと・・・」という声もあるので、今後も工夫をしながら発信して行きたい。
地域・関係機関との連携	4	深駒町会との植栽の活動は雨天のため今年度は出来なかったが、来年度以降も実施していく。幼小との連携は、今年度から駒場小学校との連携が行われ、カリキュラムレベルの交流に位置づけることができた。
研修・研究	4	今年度の私学の研究会（公開保育）に向けて、月1回のペースで園内研修（理論・実践）を進めてきた。当日は研究テーマを具現化し、本園の保育の成果を発表することができた。
安全管理	3	危機管理マニュアルに基づく訓練を行い、その都度評価を行い、次の訓練に生かした。ヒヤリハットの事案の研修から、日常的な危機管理意識を高める大切さを再確認した。

4. 2024年度の総評

結果	内 容
4	今年度9月の私学の公開保育に向けて、昨年度から研究体制を整えてきた。今年度も園内研修を定期的・計画的に行い、研究のテーマ「子ども達の主体性を育む」ことについて全体で共通理解を図りながら、その方法について日常の保育の中で検証をしていった。今日的な課題と向き合いながら、自園の保育を見直すことができたことは大きな成果であった。今後も、これまでの活動を「子ども主体」というフィルターにかけながら、本園のカリキュラムの見直しをしていきたい。

5. 来年度課題

- 子ども達の主体性を育む環境づくり。
○ 事務作業の簡略化、保護者への情報発信に資するICTシステムの活用。
○ BCPに基づく備品の整備（備蓄品の確保・AEDの設置）

1. 教育目標

- ・元気で明るく逞しい子ども
- ・人にやさしく、自分が大好きな子ども
- ・様々なことに興味関心を持ち、探求心のある子ども

2. 目標達成のため本年度の重点

- ・健康を守る保育
子どもたちの感覚統合や身体のコントロール等に課題があり、職員のスキルアップが必要。
- ・異年齢との関わりを大切にする保育
経験を重ねる事により、以上児、未満児との関係も良く、自然に過ごせるようになる。
- ・人権を大切にする保育
子ども達の話に耳を傾け、子ども達の感じていることを職員間で共有することが出来た。
- ・共に育ちあう保育
年長児の活動の様子を見て憧れの気持ちが育ち、また、縦割りの良さも随所に見られた。
- ・保護者と共に進める保育
保護者の要求に対し、出来ない所は理由を含め丁寧に断り、誠実な対応が出来ていた。
- ・地域とのかかわりを大切にする保育
地域の様々なイベントに参加し、職員もスタッフとして貢献し、地域の方との交流を図ることが出来た。

3. 評価項目（5段階評価）

評価項目	結果	内容
保育の計画性	4	・各クラス、年間計画に沿い、月の個別目標、週案を計画し、子どもの成長、発達に合わせた保育活動をしていた。期日までの週案の提出をするなど事前準備もしっかりできていた。
保育の方法と展開	4	・若い先生が、経験年数の多い保育者の保育の進め方等を取入れより良い保育を目指していた。 ・各クラスとも保育に工夫を凝らし、前年度違う内容で様々な活動をしていた。 ・子ども達の運動能力や友達とのかかわり方を意識し、現状に満足せず、更に保育の研究を行い子ども達の発達を促す内容を検討したい。
保育教諭としての資質向上 能力・良識・義務	4	・園内研修、地域研修会に積極的に参加できた。これからも積極的に参加し、保育者としての知識・技術の習得を図る。 ・皆で声を掛け合い、協力しながら行事を行うことが出来た。 ・園で知り得た情報の漏洩は徹底できている。
保護者への対応	4	・登降園時に保護者とのコミュニケーションを取るよう努めた。保護者の教育方針を理解し、相談を受けた際など一人ひとりの保護者に寄り添うよう努めている。連絡モレを防ぐ努力をした。 ・園の方針を職員が共通理解し、保護者への伝達に差が出ない工夫をしている。

地域・関係機関との連携	4	・制作物を地域施設に展示してもらった。施設への慰問を今後も続けたい。 ・小学校の先生の訪問で学校へ行くことへの興味を、子ども達が持つことが出来た。 ・保健師、支援センターと相談や情報共有をすることが出来た。
研修・研究	4	・実践的な研修、他園への見学など今後機会があれば積極的に参加し、知識・技能の習得を図る。 ・園内研修を通し、職員の連携が良くなってきている。
安全管理	4	・子どもの動線を意識し、危険箇所がないか日頃より気をつけるようにしている。けが等が起きた際は、保育者全員に情報共有をし今後の予防に努めた。 ・避難訓練、不審者対応訓練、引渡訓練を継続する。子ども達には、紙芝居や映像を使い避難訓練の大切さを知ってもらう工夫が必要と感じた。

4. 2024 年度の総評

結果	内容
4	・年齢に応じた活動の計画・準備が出来た。子どもが楽しめる工夫をしていた。 ・「ふれあいタイム」を継続して行っていることで、異年齢児の交流がみられるようになった。 ・保育経験の浅い保育者への指導では、経験年数のある保育者と組むことにより、保育者としてのスキルアップがみられた。 ・安全管理について、子ども達に訓練の大切さをもっと知ってもらう工夫が、必要と感じた。

5. 来年度課題

・感染症発生時には、うがい・手洗い・消毒の徹底と登園基準などを保護者へしっかり伝えていく。 ・職員同士の報連相の充実。各々の意識を高める。 ・運動能力を高める内容の保育の充実。子ども達がスムーズに活動に参加できる環境づくりを職員一丸となり考えたい。 ・研修に積極的に参加する。「どの子も同じマリア幼稚園に子どもである」と思い、職員同士アドバイスし合える関係性を築いていく。

1. 教育目標

『Smile～みんなで愉しもう～』

2. 目標達成のため本年度の重点

- ・ Shine ひかる maria マリア infant 幼児 laugh 笑う enjoy 愉しむ を主題に掲げ、年間を通して子どもたちも保護者も笑顔あふれる日々が過ごせるように。子ども一人一人の育ちに寄り添い、家庭と共に子どもを育てていく中で笑顔を忘れないことを意識して過ごしたい
- ・ マリア幼稚園に在園していることで、ご家族ともども喜びを分かち合い、地域の方々にも愛される園でありたい。園で大切にしていることを町内外の皆様に伝えていきたい。

3. 評価項目（5段階評価）

評価項目	結果	内容
保育の計画性	4.3	計画を立てることは大切だが実践しないと意味がない。年齢に沿った教育計画をもとに、その年年の子どもたちの興味・関心に沿って時には計画通りに進まなこともあるので、子どもたち自ら生まれる発想や気づきに合わせた保育が展開できるように進めていこうと思う。
保育の方法と展開	4.8	安全面・子どもたちへ見とりや理解に関しても、一人ひとりをしっかり捉え、保育教諭同士が情報を共有し合い、必用に応じて保護者とも共有しながら成長に寄り添えるように進めていた。 より自信持ち対応できるよう研修の機会を増やし薦めてみたい。 また、経験豊富な保育教諭を入れることでいこれまで足りなかったことが改善できるように進めていきたい。(特に保育部)
保育教諭としての資質向上能力・良識・義務	4.8	保育教諭としてプロ意識を持ち、函館カトリック学園の1職員として自覚ある職員が多くて安心しております。カトリック幼稚園の教職員として神様を身近に感じ、聖話を通して子どもたちに神様の存在を伝えていけるよう、教職員の公共要理も行いたい。 また、今年度はキャリアアップ研修もしっかり積み重ねてもらうように伝えてある。
保護者への対応	4.9	保護者対応はどの保育教諭も丁寧に細やかに行っていると思うので、自己評価でもそれが表れている。保護者対応は事案に合わせて、担任⇒主幹⇒園長と対応を配慮し、保護者との信頼関係の構築には時間を割いている。どんな保護者にも理解が深まるような対応をみんなで共有しながら責任が一人にかからないよう進めている。
地域・関係機関との連携	4.5	地域の方々とのつながりは、広まりを見せ、高齢者施設訪問の拡大、各職業施設への訪問、夏祭り等の園内行事の開示など、地域の方々と親近感を持ったつながりを大切にしている。町内外の皆様に愛される幼稚園を目指して！

研修・研究	4.2	常に変化しつつある保育に日々研鑽しながら、現場の先生・管理職も含め研修の機会を逃さず、アンテナをめぐらし情報収集しながら、共有しながら、保育に生かしていけるようにする。 保育スタッフ（パート含む）だけではなく、給食スタッフ（パート含む）研修・学びの共有を図る。
安全管理	4.9	月1回の施設点検の他に、数年に一度は園内外の環境整備・メンテナンスを実施し、安全管理に努めようと考えている。また日々の保育環境・給食等においても安心・安全な生活を提供するために本物をどう扱うか、そして自ら危険予知できる子どもを育成したいと考えている。ケガや事故はなし。

4. 2024年度の総評

結果	内容
4.6	一人ひとり自分を評価する感覚に多少差があるが、全般的に自分の保育に自信と責任を持ち、確立されているとそれなりの評価になっていると推測します。若い先生方はわからないことをわからないままにしておかず、聴いたり・相談したりしながら自分なりの保育を確立していけるように進めている。行事・年齢担当（横割り）の場合は、経験豊富な先生が助言を加えながら、子どもたちの活動がより充実したり、発表が輝けるように配慮している。また、保育教諭がお休みした時の体制づくりも確立し、どの先生が抜けても子どもたち・先生たちの不安がなく保育が進められるようにしている。今年度は、全般的に学びに対して消極的な年だったと思うので、様々な方法で保育者として学び、子どもたちと共に育ち合ってほしいと考えます。 時間の有効活用を促進し、勤務時間内で効率よく働けるようにすべてにおいて早めの準備を限りなく励行致します。

5. 来年度課題

主任級の保育教諭が2名抜けている中、後半は若い先生が少しずつ吐き出しを付け始めていると感じました。人を育てることは難しいことですが、育ちやすい環境を整えることは子どもたち同様、すぐにできることではないかと思うので、先生たちが何か一つでも自信をもってできる保育を見出してもらえたらと思います。また、少ない人員配置の中、主幹が2名置ける状況にないのはもちろんのこと来年度に向けて中間層の人材確保に早い段階からかからないとなりません。また、パート職員の働き方が変わる年になると思われるので、その辺の意向調査も含めパート職員との共有事項も再確認しながら、運営していきたいと思う。また、園の利用定員を変更したものの今後の入園数が見込めるか不安・・・出生数が付き1～2名でいない月もある中で今後どうなっていくのか・・・町内の各園が定員の半数に満たない人数の中、町は今後どう考えているのか・・・園児確保・職員確保は永遠の課題です。

1. 教育目標

幼児期に適切な環境を与え、心身の発達を助長することを目的とし、キリスト教の愛の精神を基底に幼児教育の理想をすすめていく。

2. 目標達成のため本年度の重点

- ・ひとりひとりに寄り添った援助
- ・自らすすんで取り組む気持ち（環境整備）
- ・基本的生活習慣の見直し

3. 評価項目（5段階評価）

評価項目	結果	内容
保育の計画性	3.7	・園の教育理念や教育目標を理解し、共通意識を持って活動している。 ・環境構成では、まだ不十分なところや改善していかなければならない点があった。 ・乳児と幼児の交流を計画立てて行うことができ、良かった。 ・担任だけではなく、副担任も交えた打ち合わせの時間が足りなかった。
保育の方法と展開	3.8	・「健康・安全への配慮」「内容」は高評価が多かった。 ・限られた保育者の人数の中でも、協力し合って仕事をすすめていくことができた。
保育教諭としての資質向上能力・良識・義務	3.7	・園内における「報告・連絡・相談」では、連絡事項のノート作成や会議録の書式を改善するなどの取り組みを行った。 ・製作等では、お互いに意見を出し合い、高め合うことができてきた。
保護者への対応	3.9	・保護者との関係はおおむね評価が高かった。 ・お迎え時の対応には十分配慮し、言葉がけを心がけた。 ・保護者からの伝言・依頼については、教職員共通理解のもと、対処してきた。
地域・関係機関との連携	3.1	・未就園児親子活動は、園児とのかかわりができ、交流ができた。 ・今年度は、昨年よりも地域の行事に参加の回数を多く持てた。 ・預かり保育のニーズが増えたが、各家庭の状況に応じた支援を行ってきた。
研修・研究	3.2	・療育施設とのかかわりを持つことができ、支援が必要な子どもたちへの配慮の仕方や取り組み方等を学習することができた。 ・研修会への参加の機会が足りなかった。 ・保育の在り方や計画等を保育者同士で話し合う機会が少なかった。

安全管理	3.5	・園庭遊具の安全点検は、定期的に行っている。 ・厨房が清潔で安全であるように、心がけている。 ・12月に骨折があったが、保護者への説明・対応は適切に行うことができた
------	-----	--

4. 2024年度の総評

結果	内容
3.6	・基本的生活習慣の指導は、個々の行動では、意識を持って生活することができてきた。 ・保育環境づくりでは、少しずつではあるが、余裕をもって準備を進めることができた。 ・異年齢とのかかわりのなかで、お互いに刺激を受けて成長する姿や、小さい子や困っている子にやさしく接するなど、素直な子どもに育っている。 ・施設内の適温・換気・湿度管理・消毒等に気を付けていることで、インフルエンザ・コロナ等の流行はなかった。 ・エアコンの各クラスの設置により、猛暑を快適に過ごすことができた。 ・各クラス2人体制ができた。

5. 来年度課題

・集団での基本的生活習慣の指導 ・担任・副担任との話し合いの時間を持つこと。 ・研修参加 ・支援が必要な子どもへの配慮 ・フリーの教諭の確保 ・AED、パソコンの設置 ・園舎の外回り、内回りの点検・補修

1、教育目標

- ・神を知り、神を愛し、人を愛し、周囲に感謝する子ども
- ・困難に耐えていく力を持ち、最後まで頑張る子ども
- ・自分の考えをはっきりと表現できる子ども
- ・友達と一緒に遊んだり、協力して仕事ができる子ども
- ・物事をしっかりと見たり聞いたりすることができる子ども

2、目標達成のため本年度の重点

- ・イエスキリストの教えを基に、こども達の自尊感情を育み、一人ひとりを大切に受け止める。
また、こどもが主体的に園生活を送れるよう、職員間の情報共有を深めていく。

3、評価項目（5段階評価）

評価項目	結果	内 容
保育の計画性	3.2	日々の保育を振り返り、職員間で話し合い次の保育に活かすことが出来た。こどもが主体的に関わる環境構成については今年度も課題が残る。来年度は具体的に計画を立て課題改善に努めていく。
保育の方法と展開	3.5	こどもの健康・安全への配慮については、職員間で高い意識をもって過ごすことが出来た。こどもの興味関心を見逃さず、職員の共通理解のもとで必要な援助や環境の充実を図っていく。
保育教諭としての資質向上 能力・良識・義務	3.4	一人ひとりが認定こども園の職員としての自覚を持ち、子ども、保護者、職員と関わっている。一人ひとりの個性や強みを活かしながら活き活きと働けるよう努めていく。
保護者への対応	3.6	こどもの様子を伝えながら、共に成長を喜ぶ時間を大切に、コミュニケーション図ることができた。園で大切にしている宗教的な活動に保護者にも参加してもらうことで、こども理解を深めてもらうことができた。
地域・関係機関との連携	3.2	町内の小学1年生や保育園の年長児と、交流や合同保育を行い就学への期待を高めることが出来た。こどもだけではなく教職員も繋がりを深めることができた。
研修・研究	3.1	学び続ける姿勢を大切にし、職員一人ひとりの技能・技術の向上を目指している。キャリアアップ研修の他、公開保育研修にも参加し他園の保育や環境に触れることが出来た。
安全管理	3.5	毎月の避難訓練を通して、非常時に対する意識を持てるようにしている。今年度も不審者対応訓練を実施し、警察署、消防署と連携を図ることができた。今後も職員の対応を明確にし、主体的に判断し動けるように訓練の継続に努める。

4、2024年度の総評

結果	内 容
3.4	保育活動に関して、未満児は基本的生活習慣が身に付くように、家庭と連携を図りながら進めることができた。以上児は自己を発揮し自信をもって園生活を送れるよう個々に合わせて丁寧な保育を積み重ねることができた。年齢ごとにこどもが主体の保育を心掛け、必要に応じて見直し、改善を図り、こどものよりよい育ちを大切にできるよう今後も努力していく。 また、日々の保育の中のエピソードやこどもの様子等、職員間で情報共有しながら、クラスを越えてこども理解を深めることができた。今後もこども園全体でこどもを育む意識を持ち、一貫した関りができるように努めていきたい。

5、来年度課題

保育充実のための 環境を整える	年間指導計画に基づき、各年齢ごとのこどもたちの発達を理解したうえで、遊びが充実するような環境を整備していく。年間を通して、こどもの成長に応じて環境の見直しを図っていくなど、こどもたちの実情を把握しながら保育を進めていく。また、行事の見直しや内容の工夫を図り、こどもが遊び込める時間を確保していく。
身体能力の向上	体育講師と連携しながら、こども達が楽しく体を動かす時間や、園庭での遊びや園外への散歩等、多様な遊びで体を動かす保育を大切にしていく。その経験を積み重ね、個々に合わせた体幹の強化を目指し、集中力の持続や姿勢の維持へと繋げていく。
教職員に質の向上と 連携	職種、年齢別の職務内容について、共通理解ができるように職員が役割を認識して就業時間内に業務が終われるよう、チームとしての連携を心がける。 また、専門職として個々のスキルを向上させるため、積極的に研修会に参加し、保育へ活かしていく。